

だが、この悲劇の武將の事を思うと、私は可愛想になつてしまいました。時刻はもうすでに太陽が西の方へ傾いており、ここでだいぶん時間がたったのであろう。私は時間がたつのもすっかり忘れてしまっていたようだ。

墓前に、お花を供え、ローソクをともし、線香をお供えたのだが、その線香の立ちのぼる煙が、さびしさのあまり、くねりくねり曲って昇っているようすは、とてももの悲しく、私は自然と目がしらが熱くなり、次々に涙が流れてきて、私の着ている着物の袖口をぬらしてしまふ程で、あふれてくる涙を、私はどうする事もできない有様です。

局（つばね） 観音の

由来について

矢田 保

北鉄輪地区公民館に安置されている観音像について、口伝によれば、曾て桶の厚板にその由来が記されていた



局 観 音

と言われる。現在掲げられているものは、大正年間に古い由来記を判読して再生したものである。

子安観音温泉由来

往時豊後国鉄輪荘字土城主谷川美濃守奥方春若姫 或る夜水月観世音菩薩口中に入ると夢見るに妊娠す 姫驚異の思いを為して只管ら観世音を信仰し 月満ちて産褥に苦しむ 菩薩産婦の枕頭に出現して曰く 汝妊娠よ胎児の安産を期せんと欲せば宇土の山麓東南に当りて霊泉の湧出するあり 急ぎ禅智に浴して腹部を温むべし 夢忘るべからず善哉々と云ひ終わりにて忽然として消ゆ

依て臣下に命じて手配せしめて温泉を発見するに至り 美濃守並に奥方の喜びたとうるに物なく只管水月観音の鳴徳と存じ 報恩謝徳の万分にもと宇土山福田寺なる

堂宇を建立し 専ら幼児並に国家安泰の祈禱所を設立す
依而靈泉を觀音温泉と稱し遠近の妊婦争つて入浴温腹
を施せば必ず安産するのみならず 乳量少量なる者は供
物を拝戴食すれば乳量増加し幼児の肥立完全なりとし
靈泉の徳四方に轟きたりき

宇土丸君七歳の時弘化年間（弘治の誤か）大友宗麟鎮
西諸州を併吞せんとするに際し 谷川美濃守をも随従せ
しめんと 其後矢田作十郎信孝を使者とし其旨を説かし
む 美濃守固辞して肯せず宗麟怒り兵を率いて宇土城を
責む 城中防戦に力むと雖も衆寡敵せず遂に城主美濃守
戦死落城の難に遭う この際にあたりて忠臣秋月新左衛
門萬死を冒して宇土丸君を擁して 福田寺の觀音堂に潜
みて敵の毒刃を免れしを以て恢復再挙を凶らんとせしも
天、新左衛門に余命を借さず老病終に死せり
物変り星移り宇土丸君思えらく 我は正敷水月觀世音
菩薩の夢現に依て生を谷川家に受け 生るに臨んで慈母
は菩薩の告命を蒙り之れ常に父母の訓戒せられし事耳朶
に深く残る 時なる哉命なる哉鋒を提て修羅の街馳驅せ
んより 寧ろ庶民となりて此の地に居を占め以て菩薩報

恩の萬万をも盡すに如ずと

依て谷川姓を更めて水月觀音菩薩に因み水波平かにし
て萬民安穩を期し安波を以て姓と為す 今尚血統連綿と
して繁榮すると雖も幾多の星霜を経えて 遂に靈泉場は
変じて荒野と化し安置の尊像も原野に孤立の止むなきに
至り 僅かに妊婦の腹帯を滋して乳汁少量□□の婦依す
るあるのみ

維時大正有七年某日

公開有志誌之

1 文中の宇土山は北鉄輪西部落西方一帯の字名宇土山
を指し、この地の東突端に山城があつたのではないか
と思われる。現在は隣地字ソノ田一帯の白土採掘跡の
埋め戻し土として掘削され（高さ約五十米）消滅した。

2 福田寺及び靈泉跡は、柴石川より羽室部落に到る大
井手水路沿いの、前記推定宇土城趾東下の約三十坪程
の自噴する泉源地一帯と推定される。この泉源は北鉄
輪共同温泉に引湯、現在も利用されている。

3 矢田作十郎は筆者一族の祖であるが、系図によれば、

十一代孫七郎が「正長元年（一四二八）鉄輪荘十二町歩賜わり」とあり、以来鉄輪に居住又は領有したのであろう。

4 口伝によれば、落城脱出には月夜の中を女人（後世伝えられる虎御前か？）が髪長くなびかせ、横櫓を喰え観世音を背負い、鏡を胸前に下げこれを打ち鳴らしながら走りだし、驚いて退く敵中を突破して福田寺に逃れたと言われる。この時の櫓と鏡は筆者方の火災時に粉失したとも伝えられている。

5 谷川氏滅亡後の観世音は、その後筆者の元屋敷南端（現在矢田守氏宅東隣）現存する矢田一族の始祖（寛治五年・一〇九一年）を祀る矢田家清碑の北側に並んだ約四坪の観音堂に安置され、筆者方の屋号局（つばね）を冠して通称局観音と言われ、村民が礼拝してきた。前記の火災でも屋敷端であったことが幸いして難をのがれた。

明治中期には筆者方は破産して離村し、その後部落民によって祭祀が続いて来、昭和十三年部落集会所（現公民館の前身）建設と共に観世音もこれに移されて現

在に至っている。

6 北鉄輪部落には古くより三体の信仰対象があった。稻荷社・弁財天と前記観世音である。ともに矢田氏の安置であるが、弁財天は盗難にあい社のみが北鉄輪柏本氏宅入口に今も残されている。

稻荷社は矢田アキ氏方東隣に現存し、年一回の祭祀は絶える事なく行なわれている。

観世音は、仁聞作で文化財価値大と広く喧伝されて幾度かの盗難にあったが、不思議にもその都度回収されて住民の信仰対象として大切に奉持され、昔年よりの恒例である旧盆十七日には供養踊りが現在も続いている。

一通の手紙と武家不断枕

安 部 和 也

十数年前の或る夏の日。一通の手紙が届いた。それは妻宛で差出人は親族のH氏、その手紙には次の様な事が